

公益社団法人日本青年会議所 2025 年度 基本方針

徳島ブロック協議会 会長 真鍋 和也

ブロック協議会の 理想の未来	俺たちで変える地域の発展と持続可能な徳島へ 徳島の地域資源を活用し、持続可能な経済成長を実現するため、地元産業の振興や新たなビジネスチャンスを創出し、若者が地域に定着し意欲的に働ける環境を整えます。これにより、循環型経済の推進や IT 技術を活用した新産業の発展が進み、地域全体の活力が向上します。また、若者がリーダーシップを発揮し、地域づくりに主体的に関わる場を提供し、教育機関や企業、地域社会が一体となって彼らを支援するシステムを構築します。これらの取り組みを通じ、経済基盤の強化、雇用創出、文化の継承と発展、デジタル技術の普及を図り、全住民が誇りを持って成長できる持続可能となっている徳島の未来。
ブロック協議会の 役割	徳島は人口減少、高齢化、経済停滞、防災対策の不十分さ、若者の地域定着不足が課題であり、徳島ブロック協議会は本会と連携し地域課題の解決、経済振興、防災力の向上、若者のリーダーシップ育成、文化の継承、地域間連携の強化を通じて、持続可能な発展と活性化を目指す必要があります。
ブロック連携事業 (政策手法)	- 各地域における課題と質の高い運動の調査・発掘・研究 各地域から全体最適化が可能な質の高い事業を収集し、地域間の連携を強化し、外部からの視点を取り入れ地域の魅力を発掘します。その魅力を地域内の各種ステークホルダーや地域間の協力により、より良い運動の展開ができる環境を構築できるよう、徳島ブロック内各 LOM そして全国に向けて発信してまいります。 - 地域に眠る活用しきれていない資源の調査・発掘・研究 年間を通じて、地域に眠る活用しきれていない資源を外部の視点を交えて調査発掘をします。有識者や、関係生関と連携し、経済活動として利益を生み出しつつ環境保全にも貢献する好循環モデルを研究し、魅力ある徳島の造像のため全国に発信し、徳島県の発展に寄与します。 - 誇れる組織への改革に向けた運動を加速させる各種プログラム実施・支援 JC プログラムの JCI Achieve や JCI Impact をブロック協議会主導で開催します。地域の課題を見出し、地域社会を巻き込んだ事業を行うための JCI アクションフレーム(JAF)を活用し、社会参加の概念や地域コミュニティのニーズの分析で運動構築のヒントを得ることを目的に学びの場を構築します。 - ブロックアカデミーにおける JAYCEE 育成カリキュラムの運用 組織を活性化させるためにはメンバーが共通の価値観を持つことが不可欠です。現状は JC 在籍歴が短いメンバーが多く、必ずしも価値観が統一ではない状態にあります。まずはブロック協議会内に共通して適用できる育成カリキュラムを、日本本会と連携して実施する必要があります。JAYCEE 育成カリキュラムの運用支援を行い、共通の価値観をもったリーダーたる人財を育成することで、組織を前進させることを目指します。 - 理念共感拡大グランドデザインの検証 各 LOM の半数以上がアカデミーメンバーで、なぜJCの活動を行っているのか正しく各メンバーに理念を伝えきれていない現状があります。徳島ブロックでは理念共感プロモーターや地域限定トレーナーの資格を取得してもあまり活用されていない状況が見受けられます。そこで徳島ブロック内のトレーナーと連携し理念に共感し、自ら行動ができる人財を育成することを目指します。徳島ブロック協議会としては日本 JC が行っている JC プログラムなどを活用し、メンバーに対し理念を共感していただく場を提供します。徳島ブロック協議会で開催した Purpose トレトレ受講者に対し、地域限定トレーナーの取得に向けたサポートを行い、徳島ブロック内のプロモーター及び地域限定トレーナーと連携し JC の持つ理念のさらなる波及を目指します。各地 LOM の状況をリアルタイムで把握し、適宜事業を開催することとします。人が自然と

	集まる組織をビジョンに掲げた理念共感拡大グランドデザインが最終年度をむかえるにあたり、5 年間の効果について理念浸透サーベイの実施とその分析を軸に検証する必要があります。
ブロック協議会 独自の事業	1. 有事に備えた災害ネットワークの強化に関する事業 【背景】 徳島県は南海トラフ地震や中央構造線・活断層地震など、広域で同時多発する災害のリスクを抱えており、これらの災害が発生した場合には被害状況の把握や情報伝達、支援対応が困難になると想定されています。このため、有事の際に迅速かつ適切な災害支援を行うために、強固な連携体制を構築し、行政や各組織団体が支援を求める人や支援を行う人に対して情報を発信し共有する場が必要です。 【目的】 大規模災害への備えと、災害発生時の迅速な復興を目指し、被災者の多様なニーズに対応できる人材の育成や、組織や団体との連携を強化する事業を実施します。この取り組みを通じて、防災意識の向上と災害対応に関する知識を深め本当に必要な支援は何か等を学び、適切な支援を行える知識を得るだけでなく、発災時における災害支援の取り組みでの協力体制を強化することを目的とします。 【手法】 南海トラフ地震をはじめとする多様な災害を想定し、体験型の防災訓練シミュレーションを実施します。本事業は、災害発生時における防災意識の向上と、災害に関する知識の蓄積を目指し、参加者には、リアルなシナリオに基づいた訓練を通じて、実際の災害時に求められる判断力や対応力を養います。また、訓練を通じて得られた知識や経験をいかし、地域全体の防災力を強化します。 またこの取り組みを本会と連携を取り、コミュニケーション能力、決断力、柔軟性を兼ね備えた人材を育成し、事前に防災・減災の知識を持ち、災害時に起こりうるリスクマネジメントができる人材が先陣を切り、地域全体で災害支援を行える体制を整えます。そして、住民一人ひとりが災害に対する備えをより確かなものとし、発災時に迅速かつ的確な行動が取れるようサポートします。
	2. 徳島ブロック大会吉野川大会の実施 【背景】 地域住民の皆さまが主体的に関与できるプロジェクトを企画し、地域の魅力を再発見・共有する場を構築するにあたり、地域の魅力を模索し郷土愛の醸成を深め、家族を含めた一般市民の方々の心にインパクトを与えるため、県内 7LOM の力を合わせ組織の絆と交流をより高めることが必要となります。 【目的】 徳島ブロック大会記念事業・記念式典を開催し、地域経済の活性化を図りながら、徳島県内の地域魅力や独自性を引き出し、LOM の垣根や入会歴を超えた会員同士の交流を促進して新たな友情や絆を育みます。また、魅力ある徳島ブロック大会を実現し、JAYCEE としての力強い活動へと繋げることを目指します。 【手法】 県内 7LOM が協力し、地域住民が主体的に関与できるプロジェクトを企画し、地域の魅力を再発見・共有する場を構築することで、郷土愛を深め、一般市民の心にインパクトを与えることを目指し、徳島ブロック大会吉野川大会記念事業・記念式典を開催します。地域経済の活性化を図りつつ、徳島県の魅力や独自性を引き出し、LOM 間の垣根や入会歴を超えた会員同士の交流を促進し、新たな友情や絆を育みます。これにより、JAYCEE としての力強い活動へと繋げていきます。
ブロックによる LOM 支援の 実施内容	1. 各 LOM の支援が必要となる事業をあらかじめ把握するため議案の提供を求める。 2. 要支援事業月の提供を求め有効な支援の提供を行う。 3. 要支援 LOM への成功事例案情報提供。

